

目指す幼稚園像・園の教育目標	全人教育の理念を重視した心の教育	1. 心情	2. 意欲	3. 態度の育成	・元気で明るい子	・心のやさしい子	・創造力豊かな子	・意欲的に取り組む子
本年度の重点目標	・国・県・市・学園の方針を基に地域・保護者のニーズに対応した幼稚園教育を進めていく。・体験活動の重視と生きる力の基礎指導を発達に応じて指導を深める。・家庭・地域との連携を図り、教育活動の理解と協力を得る。							

令和4年度新型コロナウイルス感染防止に伴う 重点事項

- ◎新型コロナウイルス感染防止に伴う、園児の健康と安全管理を重視した保育の実施
- ・国・県・学園の方針を遵守した幼稚園運営の実施
- ・保護者の理解と協力により、従来と異なった保育内容等の工夫と実施
- ・国・県の新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに基づいた健康・安全管理の徹底
- ・非常時対応は緊急メールにて保護者通知による休園・自粛登園の実施

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	改善の余地あり（4割以上）
	D	問題がある（4割未満）

出席者	
学校関係者	4名
教職員	2名

◎具体的方策

- ・感染源を絶つため、保護者の園舎敷地内出入り禁止
- ・保護者参観の中止・運動会・美術展の分散実施・クラス発表会は学年単位で実施。状況により保護者人数を制限した。
- ・年長組は最後の学年のため、宿泊合宿に変わり、園庭でミニ合宿、近隣公園遠足1回実施。

番号	評価項目	現状と課題	具体的内容	評価項目の達成状況	次年度への課題	達成度	学校関係者意見
				令和5年3月31日現在			実施日 令和5年3月31日
1	◎教育方針・教育目標の具現化 ①心を育てる（根っこを育てる）教育と体験の重視 ②おもいやり・意欲・態度の育成 ③指導計画の実践 ④基本的生活習慣の自立 ⑤人権教育の徹底と重視 ⑥園内研修の充実	・教育目標を具現化し学級経営に生かしている ・教育方針を保護者に、学級懇談会、園便りで知らせ、理解と協力を得ている ・ヨコミネ方式を取り入れた教育の実践で意欲や自信が育ってきている。 ・体験活動を基盤に、系統的・計画的な環境指導に努めている ・指導の継続性が必要である。 ・日常の生活や遊びの中で指導している。特に相手が傷つく言動を見逃さない職員の意識を高めてきた。 ・園務分掌の煩雑化の中で、計画的、系統的に研修時間がとりにくい。	・教育目標の具体化と学級経営の工夫と改善 ・幼児一人一人の育ちの評価と工夫 ・教育内容と子どもの育ちを保護者に伝え、理解と協力を得る。 ・年齢・個人差を考慮した指導実践 ・挨拶、身の回りの始末・姿勢・靴を揃えるなど日常の生活習慣を発達に応じて指導してきた。 ・日々の実践から職員の共通理解を行ってきた。 ・名前の呼び方や用語等その都度改善を図った。 ・子どもの行動の特色や個人差を指導計画に加え、実践事例を話し合ってきた。	・指導計画に基づいた指導がほぼできた。 ・学年ごとに育ちが顕著に見られている。 ・週日案による評価・計画と行事評価など全職員で話し、共通理解のもと進めている。 ・繰り返しの根気強い指導で取り組めた。 ・保育者の意識の持ち方で変容が見られる。 ・職員の意識の高揚を指導し、共通理解を持つことが課題である。 ・保護者への言動に注意をする。特にラインで個人名を使わないことの徹底指導。 ・意図的・計画的に進めていく。 ・短時間でも中身を重視し実践していく。	・学年目標の共通理解と3・4・5歳児の教育のつながりをさらに充実させていく。 ・園目標の評価を園便り・ホームページで公開（子どもの育ち）の写真等で具体的に示す。 ・ヨコミネの教育の計画的指導と子どもの育ちを啓発していく。 ・個人差を丁寧に捉えていく。 ・評価の視点において子どもに育ていこと、育ってきたことの共通理解を深めていく。 ・継続的・教育に園内研修を進めていく。 ・チームティーチング方式を取り入れ、子ども同士の言動を丁寧にみていく。 ・人権研修に積極的に参加する。 ・園児の事故対応、保護者対応など、当面の課題を研修で深めていく。	A	・教育方針に基づいた指導がなされていた。 ・ヨコミネ方式の教育で、子どもの様々な面での成長を感じる。特に文字が読めるようになり感動した。 ・基本的生活習慣が身につけている。 ・忘れ物チェック等していただき、小学校へつながる指導が行き届いている。
2	◎園児の健康・安全の徹底 ①健康・安全教育の重視 ②施設・設備等の安全重視	・安全・保健指導の具体的表示や指導に学級差がある。 ・安全指導の継続的な養育教育を徹底していく。 ・遊具の点検を日、週、月、学期で実施している。 ・施設・設備面での点検や事故防止に十分配慮している。 ・砂場、園庭の日常点検の実施。 ・日々の保育が行事と融合し子どもの良い体験となっている。	・保育室・玩具の消毒・園児の手指の消毒の徹底。 ・常時清潔なマスクの着用 ・三密を避ける行動の指導 ・手洗い、うがい等の保健指導と確認を行う。 ・感染を防ぐための保護者協力を行う。 ・避難訓練・地震訓練、誘拐防止指導を関係機関の協力で実施。 ・色々な場面想定と日常訓練を行い問題点等、改善していく。 ・防犯カメラの設置・庭木の伐採・2階テラスの安全カバーの設置等で安全に努めている。 ・滑り台の手すりの落下防止を考慮し高さをかさ上げ修繕を行った。	・園児の家族等の感染、検査の場合の情報提供と自粛休園の協力。園児保護者の家族の風邪症状でも自粛休園等の協力が得られた。 ・幼稚園行事で保護者を伴う活動制限の協力が得られた。 ・インフルエンザ、ノロウイルスの蔓延を防ぐ保護者の協力を得られている。 ・警察・消防署の指導を受け、定期的に実践をしていく。 ・事故防止の徹底を随時指導し、職員の意識の高揚に努めていく。 ・子ども達の主体的な取り組みや異年齢のかかわり方が育ってきた。	・国・県のガイドラインのに基づき、感染予防の視点で園児の教育活動をあらたな視点で工夫改善を図っていく。 ・感染防止の危機管理を持って、園児の情報、行動管理を行っていく ・職員の健康管理にも努めていく。 ・個人差を踏まえ、指導を徹底していく。 ・インフルエンザの蔓延を防ぐ保護者協力を徹底する。 ・安全指導は各学級で日常的に指導し、行動の仕方を守らせていく。 ・継続で実施し、子どもの特性を理解しながら、危険な場面を想定し実施していく。 ・通園バスの安全指導、徒歩通園者の通園路等の安全指導を行う。	A	・遊具修繕、園庭の盛土等ありがたい。その都度、保護者にも知らせて欲しい。 ・誤飲事故防止の弁当指導とともに、給食メニューで誤飲が疑われる場合は配慮して欲しい。 (ミニトマト・ブドウ・枝豆・ミートボール等)
3	◎幼稚園行事の工夫と子どもの育ち	・子どもの主体性が育ってきて、保護者の協力を得られている	・子どもの体験を重視した内容の工夫改善がされた。 ・運動会、発表会、音楽会など子どもの興味を大切にした内容の改善を図った	・職員の資質向上と共通理解により内容に深まりがみられてきた。 ・学級枠を超え、園全体の取り組み姿勢ができた。	・年間行事の流れに行事を加え、行事のためにならないように見通しのある計画に努める。	A	・行事内容に学年の工夫がされていて、子供達の育ちが感じられた。 ・園庭の会場になったが、保護者席の工夫がされ園児の表情が見られ楽しめた。
4	◎家庭・地域との連携 ①小学校との連携 ②保護者行事・保育参観の工夫	・行事中心の参観が多い。保護者参加の行事等も求められる。 ・地域行事に参加している（団地敬老会、老人施設訪問） ・年長児は小学校の授業参観、給食参観が求められる。 ・保幼小中と連携を図り教育活動が充実している	・特にコロナ対応に対する保護者の協力と教育の理解を求めた。	・バス通園が主流で保護者とのコミュニケーションが不足している。 ・園便りを読まない保護者も見られる。 ・家庭訪問・個人面談・連絡ノート・電話連絡等で保護者との連携を深めた。 ・行事役員、職員とのコミュニケーションが図れた。	・園便り、クラス便りの読みやすい、わかりやすい工夫が求められる。 ・文字を読まない、多忙で1ヵ月単位の計画を把握できない保護者への対応を考えていく。 ・保護者の行事協力は職員の指導と協力が求められる。	B	・園便りや行事変更は早めに連絡して欲しい。 ・小学校のプール実施回数が少ないので、幼稚園の回数を増やして欲しい。
5	◎子育て支援の充実 ・親子プレー教室 ①未就園児保育による親支援 ②預かり保育の充実	・各担任が協力し在園児との交流を図ってきた。 ・パート職員の担当者との連携に問題があった。 ・休日行事等、振替休日の開室と職員数の問題がある。 ・3歳の新入園児の長時間保育は子どもの発熱やぐずるなど子ども自身には負担が多い。	・園長コーナーを作り、紙芝居・絵本読みを継続的に行った。 ・8時からの預かり保育対応、緊急時の受け入れを行ってきた。 ・伝統行事体験を重視し、親子体験を取り入れてきた。	・各担任が協力し、系統的・意図的に交流保育を進め、園の特色を生かしたプレー教室を実施できた。 ・在園児と未就園児との交流は異年齢の良い体験となった。 ・保護者の多様なニーズに対応してきた。（長時間保育の受け入れ・緊急時の受け入れ） ・定員枠を超えた場合は職員増で対応してきた。	・担当職員の設置と系統的計画の流れを作成する。 ・本園の特色を生かした内容を深める。 ・低年齢児の長時間保育の対応工夫が必要である。 ・保育中の疾病に対し、保護者の迎え等の協力が必要である。	B	・保護者のニーズを考えていく。 ・預かり保育の利用基準を入園時に案内して欲しい。
6	◎会計・庶務学級事務を適切に行う	・保育料無償化事務が5市にまたがり複雑化している。	・学園監査を毎月受け、正確に処理されている。	・保護者徴収の使途や会計報告の改善を図る。	・学園本部指導の下に正確に行う。 ・チェック体制による確認の実施。	B	・返金については詳細を明示して欲しい。
7	◎情報関係 ①緊急連絡網。 ②公文書の扱い ③ホームページの活用 ④保護者同士の情報の仕方	・緊急連絡網の趣旨の徹底。 ・文書扱い等個人情報の使途を文書で必ず書き、扱いの共通理解を徹底する。	・緊急連絡網等の趣旨説明、スムーズに実践されている。 ・ホームページは保護者の了解を得て積極的に子どもの育ちを発信している。 必要な情報のみとし、回収をしている ・園便り等発信と読む側の関心度にズレも見られる。 ・入園希望見学者や保護者の教育内容理解に視聴覚教材を有効に活用している。	・保護者のライン等の個人名を早めにキャッチし、教育活動の障害を防ぐ。 ・園児の怪我、急病の時のあらゆる情報を保護者と密にする必要がある。	・保護者はライン等で連絡し合うので、言動に注意をはらう。 ・視聴覚教材の工夫で見学者等に教育内容を有効に伝達していく。	B	・SNSの情報については、園児のプライバシー等を考慮して発信をしていく。